

2027年横浜国際園芸博覧会の概要

- 国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らしの創造等を目的に各国で開催
- 最高位の国際園芸博覧会(A1)は、AIPH(国際園芸家協会-各国の園芸造園団体が構成-)の承認と、BIE(博覧会国際事務局-各国政府で構成-)の認定が必要(我が国では1990年の「大阪花の万博」に次いで2回目の開催)
- AIPHは承認済(2020年3月)であり、閣議了解(2021年6月22日)を受けてBIE認定に向けた調整を開始

開催概要

- 開催場所:旧上瀬谷通信施設(約242ha)
(横浜市旭区・瀬谷区)
- 開催期間:2027年3月~9月(6か月間)
- 博覧会区域:約100ha
- 参加者数:1,500万人
(ICT活用等の多様な参加形態を含む)

事業方針

- テーマ
幸せを創る明日の風景
~Scenery of The Future for Happiness~
- 開催意義

■位置図



相鉄線「瀬谷駅」から北に2km

■博覧会会場計画(イメージ)



様々なテーマ性を持つ「village」を展開し、花や緑、自然と人とのつながりがもたらす未来の風景を表現

(参考) 大阪花の万博会場写真



■資金計画

- ・会場建設費 320億円(財源:国、地方自治体、民間の負担を想定)
- ・運営費 360億円(収入:入場料収入が中心、物販収入等)

Society5.0の展開

グリーンインフラの実装

観光立国や地方創生の推進

花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化

通信施設跡地の返還とまちづくり